



西トップ寺院全景

写真は本年2月の撮影。発掘調査は手前の低いテラスを横断するように調査区を設定している。今年度以降は中央祠堂（写真奥）の周囲まで調査対象を広げる予定。南東から。

本文1頁参照（撮影：井上直夫）

唐大明宮太液池出土の欄干

石製で勇壮な龍の彫刻が飾られている。池内に張り出す釣殿状建物の周囲に使用されたと考えられる。高さ66cm、幅126.5cm

本文12頁参照（撮影：中村一郎）





藤原宮朝堂院東第六堂の調査

(飛鳥藤原第136次調査)

藤原宮跡の朝堂としては初めて建物全体を検出した。桁行14間(168尺、49.3m)・梁行4間(38尺、11.2m)、建設に先立って四周に溝を掘削し、完成とともに埋め立てた。東から。

本文57頁参照(撮影:井上直夫)



礎石据付掘形内の根石

礎石据付掘形に入れられた根石は極めて良好な残存状況を示す。地盤の悪い東側では特に入念に石が入られていた。北から。

本文56頁参照(撮影:井上直夫)



川原寺の調査（飛鳥藤原第133-12次調査）  
 中金堂と講堂の中間西方で検出した鐘楼もしくは  
 は経楼の遺構。礎石は直径1mほどの円形柱座を  
 もち、火災痕跡が2度確認できる。L字形の凝  
 灰岩製基壇外装は2度目の火災後に据えられた  
 ものである。南東から。

本文74頁参照（撮影：井上直夫）



川原寺出土磚仏  
 右列が小型独尊。中2列が方形三尊B。左列上が火  
 頭形三尊。左列下2つが特殊な磚仏

本文78頁参照（撮影：井上直夫）



甘樫丘東麓遺跡の調査

(飛鳥藤原第141次調査)

甘樫丘東麓遺跡で初めて7世紀の掘立柱建物群を確認した。掘立柱建物SB070の外側の溝は、埋土に焼土や炭が含まれている。東から。

本文87頁参照 (撮影：井上直夫)



掘立柱建物SB060

北西調査区の中央付近で検出した掘立柱建物SB060には、8間以上の掘立柱罫が取り付く。東から。

本文88頁参照 (撮影：井上直夫)

平城宮東院地区  
西北部の調査（平城第381次）  
北西から宇奈多理神社の森をのぞむ。宇奈多理神社の向こうには復元整備された東院庭園がある。神社は微高地に立地し、手前は谷地形となる。北西から。

本文94頁参照（撮影：杉本和樹）



円形大土坑SX18757の完掘状況

径約2.5m、深さは約2.5mと巨大で、底部に径約30cm、深さ約50cmの小穴をもつ。井戸か、あるいは氷室に類する貯蔵穴であろう。北東から。

本文98頁参照（撮影：牛嶋 茂）



重複するSB18760とSB18762の柱穴断面

今回の調査でも、多くの遺構の重複が確認された。SB18762の柱掘形のほうが概して小規模で、柱は抜き取られず腐ったのであろう、柱痕跡が残る。南西から。

本文100頁参照（撮影：牛嶋 茂）



平城宮中央区朝堂院の調査（平城第389次）  
中央区朝堂院の朝庭北部の調査。調査区は称徳天皇大嘗宮の北側で、写真手前の調査区北端は第1次大極殿院南門南端。写真中央付近、水路の西が中央区朝堂院の南北中軸線にあたる。北西から。  
本文102頁参照（撮影：中村一郎）

#### 第一次大極殿院南門南面階段

調査区北端で第一次大極殿院南門南面階段の痕跡を確認した。階段は二時期あり上層階段は下層階段よりも南に伸び、下層階段の前面に広がる小石敷の上に、上層階段の積土がおかれる。上層階段積土の南端には、地覆石と考えられる凝灰岩片がちらばる。西から。  
本文104頁参照（撮影：杉本和樹）



#### 丸太組遺構の検出状況

調査区の西部、平安時代初頭の南北溝で検出された丸太材。溝の両肩にかかるように横木を据え、その上に縦木を何本も並べ、溝に蓋をしていたようである。南北道路と東西道路の交差点に設けられた橋か。北から。 本文107頁参照（撮影：牛嶋 茂）





平城宮朝集殿院の調査（平城第394次）

東朝集殿の調査。東朝集殿は第48次（1968年）で調査した。その後、東区の大極殿・朝堂院で、礎石建ち建物に先行する掘立柱建物の存在が明らかになった。そこで、礎石建ちの朝集殿に先行する掘立柱建物の有無を確認を目標とし、建物基壇全体の再発掘をおこなった。中央部の黄色を帯びた部分が基壇。南東から。

本文114頁参照（撮影：中村一郎）



東朝集殿基壇周辺の凝灰岩片

基壇周辺には、基壇化粧に用いられた凝灰岩の破片が散在していた。中には、よく加工痕跡をとどめたものもある。北から。

本文116頁参照（撮影：中村一郎）



旧大乘院庭園の調査 西小池西岸（平城第390次）  
大乘苑の跡地の調査。この調査で西小池は西南隅に堰や木樋など水量調節のための施設や排水溝を備えていたことがわかった。また、池と御殿前の庭とを区切る遮蔽施設（写真ほぼ中央）や庭園を鑑賞するためのあずまや、それに付随した水溜などを検出した。北から。  
本文120頁参照（撮影：牛嶋 茂）

礫敷遺構SX8830全景

江戸時代以前の遺構も多数検出した中で、礫敷遺構SX8830はもっとも注目される遺構である。H字形の平面形を呈し、写真手前から水を流すしくみとなっている。蹲の性格が想定される石組遺構SX8831と一体のものであった可能性がある。北東から。 本文123頁参照（撮影：中村一郎）